

5. 歯学部

(分析項目Ⅰ 研究活動の状況 15)

(分析項目Ⅱ 研究成果の状況 16)

分析項目Ⅰ 研究活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

研究活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 学部内研究組織としての硬組織疾患基盤研究センターに准教授1名、助教1名を配置し、トランスレーショナル研究を推進している。センターは第1期中期目標期間の大学重点研究課題である「骨格系の基盤研究拠点形成」の中心となっており、引き続き国内外の中心研究拠点を目指している。同センター及び関連分野は、第3期中期目標期間中において科学研究費 基盤研究（S）、基盤研究（A）及び日本医療研究開発機構（AMED）を獲得しており、継続的な硬組織研究を遂行している。
- 基礎系分野の研究及び教育の効率化を図るため、令和元年度に組織改革を行い、常態系、動態系、病態系の3領域に区分し、人員削減に伴う、教育スタッフの横の連携を推進した。また基礎系の各分野の境界領域に位置し、融合的課題を対象とした研究を行うため、フロンティア口腔科学分野の令和2年4月の設置を決定し、人員は准教授1名とし、医歯薬学総合研究科フロンティア生命科学分野の解散に伴い、同分野の准教授をあてた。また臨床系分野については、平成30年4月に齶蝕学分野と歯周病学分野を統合し、教育の効率化とともに研究領域拡大による活性化を図った。これにより教授1、准教授1、助教2の人員削減を達成した。
- 歯学部の教授が細菌学、微生物関連の研究を対象とした北里柴三郎らによって創設された永い歴史と権威のある学会賞（浅川賞）を受賞し、NHK ニュースにも報道された。

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 高い質にある

〔判断理由〕

学術的に卓越している研究業績、社会・経済・文化的に卓越している研究業績が、それぞれ、8報、3報との評価を受けており、現況分析単位の目的・規模等を勘案し、高い質にあると判断した。

特に、「歯周病原細菌の病原因子の網羅的解析」は、学術的に卓越している研究業績であり、「難治性口腔疾患を対象とした細胞治療の開発研究」は、社会・経済・文化的に卓越している研究業績である。